



# 愛知陸協広報

第61号

令和6年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号 ハレラニ千代田ビル301

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

## 令和5年度を振り返って

専務理事 榊原 茂

令和5年度は、長いコロナ感染症による規制から解放され、久しぶりに平常な生活が戻ってきました。しかし、終息というわけではなく「コロナの陽性反応が出て5日間自宅待機です」という声や「インフルエンザにかかった」という声が、時々聞こえてきます。街中にはマスクをした人々も多くいて「まだ予防しているな」と感じられる今日この頃です。

競技会とはいうと、観客の入場OK、声出し応援OKと以前の風景に戻ってきました。後半の競技成績は、特別国民体育大会(鹿児島)で天皇杯総合6位、皇后杯6位と前年度を上まわりました。少年女子A100mHの林美希選手(中京大中京高)が今年度負け無しの優勝をしました。残念なことに他に優勝種目はなく、来年度に期待をしたいところです。

晩秋から冬にかけて、駅伝大会やマラソン大会が各地で開催されました。11月に行われた全日本大学駅伝に34年ぶりに出場した名古屋大学は、第1走者で大きく出遅れましたがよく盛り返し、19位まで順位を上げました。東海地区の大学が競い合って関東勢に近づけてほしいと思います。都道府県駅伝は女子19位、男子20位でした。スタートでの出遅れがありましたが、後半よく追いつき順位を上げることができました。

マラソンも各地で行われ、読売犬山ハーフマラソンに始まり、鈴木亜由子杯穂の国豊橋ハーフマラソンで締めくくりました。名古屋ウィメンズマラソン2024は、パリオリンピック出場への最終レースとして多くの報道陣や観衆が見守る中、愛知ゆかりの安藤友香選手(ワコール)が7年ぶりに自己記録を更新し優勝しました。しかし選考基準には及ばず、無念の涙を吞みました。鈴木亜由子選手も自己記録を更新し3位に入りました。この大会は、愛知選手権の女子マラソンも兼ねており、庄内RTの古賀友貴選手が選手権者になりました。

2026年アジア大会・アジアパラ大会に向けて会場も整備が進みつつあり、アジア組織実行委員会も本格的に活動し始めました。愛知陸協としても、審判編成を進めていかななくてはなりません。また一人でも多くの代表選手が出場できるよう選手強化も進めていきます。選手の皆さん頑張ってください。審判員の皆さんも競技会運営への協力と、技術の向上に努めてください。

県民・市民のご理解ご協力を得ながら、愛知陸協一丸となって頑張っていきたいと思います。

## 太田智樹選手(トヨタ自動車)が日本新記録樹立

2023年12月10日(日)に、パリオリンピック代表選考会を兼ねた日本選手権の10,000mが国立競技場で行われました。この大会ではLEDライトの「電子ペーサー」を初めて導入、レースは日本記録ペースで進み、トヨタ自動車の太田智樹選手が、27.12.53の日本記録で2位、上位3名までが日本記録を破りました。また、4位にトヨタ自動車の田澤廉選手、7位にトーエネックの難波天選手が入りました。なお、パリオリンピックの10,000m最終選考会は、2024年5月3日(金)静岡県小笠山総合運動公園静岡スタジアムで実施されます。



力走する太田選手(右)と田澤選手

## 専門委員会報告

### 競技委員会

#### WRk 競技会について

2024年度の県内における競技会等の日程も関係方面のご協力により、ほぼ確定することができました。ありがとうございました。新しいシーズンに向けて、先日、全国競技運営責任者会議がオンラインで行われ、ルール変更などが伝達されました。スタートや屋外・屋内記録の扱い、投てき関係などを中心にシーズン当初から注意しなければならない変更があります。詳細は他の委員会の報告や伝達講習会でご確認ください。

この会議の中でWRk(ワールドランキング・コンペティション)競技会についての伝達がありました。WRk競技会は、その結果がWA(世界陸連)のワールドランキングに反映され、これによりダイヤモンドリーグなどの国際大会に参加する際に必要となる権利を獲得できる大会です。国内では日本選手権やグランプリツアーなどが該当します。県内では、名古屋ウィメンズマラソンがマラソンにおける最高レベルのプラチナレベルとなっています。

WRk競技会が開催できるのは、WA規格でクラス2(新しい瑞穂スタジアムが該当)以上の競技場が必要なため、愛知県には関係ないと思われるかもしれませんが、最も低いFカテゴリーの大会であれば、国内公認の競技場でも実施ができます。また、特定の種目に限定しての実施も可能です。

ただし、実施の条件が多くあります。まず、WA規則の適用とそれにとまなうWA規格に適合した計測器具や投てき用具などの使用です。また、大会エントリーに際しての英字氏名、生年月日、国籍などの入力が必要となります。ただし、エリア記録(アジア記録)以上が公認されないことを許せば、スタートにおけるSIS(スタート・インフォメーション・システム)の使用や一部の計測器具の使用も必須ではなくなります。

2026年のアジア大会終了後、多くの全国レベルの大会が瑞穂スタジアムで開催され、WRkに該当する大会も実施されることと思います。また県内外の高いレベルの選手に愛知県で開催される大会に参加してもらうためにも、競技委員会として、現行の競技場の環境の中でのWRk競技会開催についての検討をしていきたいと思っています。

(安田 純久)

### 施設・用器具委員会

#### 1. マラソンコースの(部分)計測について

##### a) 犬山ハーフマラソンコース[1月6・7日実施]

昨年度、感染症拡大が落ち着き始めた矢先、城下トンネル壁面の剥離が発覚し、4年間実施できませんでした。壁面の復旧工事が間に合わないことから、今回は、トンネルの通過を回避し犬山城前を走るコースに変更して開催することになりました。

コースの一部変更に伴い、陸協から桑原、南、村瀬、平川と小島会長をはじめとする尾張陸協の方々8名、及び市職員と新聞社の方々の総勢16名の協力をもちまして、事前の予測通りハーフを0.73m、10キロはそこから更に

118.68m延ばすことにより、陸連の公認を得ることができました。特に10キロの折返し点延伸については、江南市と扶桑町との境手前で納まりましたので、2月25日に大会が行われました。

##### b) 名古屋ウィメンズマラソンコース[1月20・21日実施]

昨年からはじめた新愛知県体育館建設工事の一環として、地下鉄の駅改札口から地下通路を新設中ですが、今回規制が中央分離帯側から歩道側の2車線に変わりました。また、掘留橋で行われていた耐震工事が終盤となり、工事前の状態に戻りました。

これらの変更を受け、当日は朝から雨の降る中、ハーフから35km地点まで、陸連の福島氏と陸協(南、村瀬、青木、吉越、世古、平川)の6名、及び事務局の方々6名に、県警(パトカー2台)と警備員若干名の皆様方の協力のもと計測を行いました。結果は約6m長く出ましたが、記録への影響は少ないと判断し、距離の調整は行いませんでした。特に今回愛知県警のパトカーには、積極的にサイレンを鳴らし、スピーカによる呼び掛けまでしていただき頼もしかったです。

#### 2. 陸上競技場の名称変更について

年末に半田市において、某企業とのネーミングライツ(命名権)に関する契約が締結され、施設名「半田運動公園陸上競技場」から愛称「半田びよログスポーツパーク陸上競技場」への登録名称変更が、先日、陸連の委員会において認められました。なお、この件に伴う競技場コード(223140)の変更はありません。

(平川 貴之)

### 審判委員会

2023年度の各種競技会へのご協力につきまして、誠にありがとうございました。パロマ瑞穂陸上競技場が未だ改修中でとくに瑞穂開催の競技会ではご不便をおかけしておりますが、あと2年間はこの状況が続きます。新しい競技場が完成することを期待しながらですが、引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、本年度のS級公認審判員昇格者はありませんでした。年齢条件が引き下げられて昇格者が増えるかと思われた中、この状況は少し驚きです。前号の広報に昇格条件は提示してありますので、ご確認いただきたいと思います。

また、A級公認審判員昇格者につきましては、尾張地区0名、名古屋地区6名、西三河地区7名、東三河地区1名の方々が本協会理事会にて承認されました。これも昨年度と比べると減少しています。B級取得から10年経過が条件の一つですので、可能性のある方は積極的に昇格を目指してください。

本年度のB級公認審判員合格者につきましては、前期18名、後期26名でした。来年度の各種競技会へ積極的に出席していただき研修を積んでください。

本県の公認審判員数はS級121名、A級144名、B級849名、合計1114名となりました。このうち女性は242名で全体の約2割です。全国的にも同様な傾向にあり、女性審判員の養成が課題の一つであります。また、公認審判員資格として、毎年度の登録が必要です。何らかの理由で登録ができていないの方々があるようです。まもなく登録の

時期ですので、お忘れなきようお願いいたします。

2026年度のアジア大会開催に向け準備していかなくてはなりません。未だ審判編成における方針等が示されてはませんが、愛知陸協所属の多くの審判員に協力を得なければ開催は難しいものと思われます。来年度中には何らかの報告ができるようすすめていきたいと思いますが、ご協力よろしくをお願いいたします。

(伊藤 明久)

## 選手強化委員会

### 全国都道府県対抗駅伝報告

年末年始の代表者合宿を経て、令和6年1月14日(日)女子駅伝が京都で、翌週21日(日)男子駅伝が広島で開催されました。男女ともに最終合宿前後からの体調不良者・故障者が数人出てしまい、エントリー変更・区間決めに苦慮する大会となりました。

毎日スタッフミーティングを開き、最良のオーダーはいかに？で話し合いを続けて決定された区間配置。試走・カテゴリー別ミーティングでの徹底されていったレース展開による走り方。当日は選手一人ひとりの意地と愛知県代表である誇り、そして何よりここまで大切にしてきたチームワークを信じレースを見守りました。

女子チーム1区藤田あい選手は流れを作ることに重きを置き、必死に先頭との差が開かないよう頑張ってくれました。残念ながら区間45位と大きく出遅れてしまい、本人も涙するタスキ渡りとなってしまいました。2区山本有真選手は日本を代表する長距離界のエース的存在。万全の体調ではなかったレース当日でしたが、経験と意地での快走を見せ、12人抜きの区間2位の好タイムで応援して下さる皆様はもちろん我々チーム愛知にも、元気で再度期待を与えてくれました。3区渡邊真瑚選手(区間26位)・4区石川桜子選手(区間13位)・5区火山華選手(区間14位)・6区野村通子選手(区間19位)・7区前田彩花選手(区間4位)・8区馬場虹羽選手(区間19位)と全員が1秒を削り出す粘りの走りを見せてくれました。その中でも山本選手の区間2位に続き、区間一桁順位で快走してくれた前田選手の姿は、県民の皆様にも興奮と楽しむ時間を提供できたのではないのでしょうか。45位でスタートした今年度の駅伝でしたが、26県を抜き19位でアンカー逸見亜優選手(区間17位)に繋がれました。順位を上げることはできませんでしたが、後続の県の追撃を振り切り順位を守り切ったのゴールでした。



女子 総合成績 2時間20分55秒 第19位 F:ふるさと選手

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	藤田 あい(豊田自動織機)	21分19秒	45位
2区	山本 有真(積水化学)F	12分35秒	2位
3区	渡邊 真瑚(千郷中学)	10分07秒	26位
4区	石川 桜子(豊田大谷高校)	13分19秒	13位
5区	火山 華(安城学園高校)	13分28秒	14位
6区	野村 通子(豊川高校)	13分38秒	19位
7区	前田 彩花(関西大学)	12分47秒	4位
8区	馬場 虹羽(江南北部中学)	10分26秒	19位
9区	逸見 亜優(豊田自動織機)	33分16秒	17位

翌週の男子は雨の心配がされる中での開催でしたが、比較的暖かい中での大会となりました。1区相地一夢選手は、高校トップ選手が集まる1区の速い流れに必死に食らいつきましたが、前半のオーバーペースから2km過ぎあたりから徐々に遅れだし、トップとの差1分29秒と大きく出遅れてしまい区間38位となってしまいました。2区中学生の稲垣諒也選手(区間20位)は持てる力を全力で出し、5人抜きの33位で3区チーム愛知スーパーエースの近藤幸太郎選手(区間6位)へタスキを繋ぎました。区間賞も視野に入れての出場でしたが大きく出遅れてしまった展開に、ペース配分よりも順位を上げることに切り替えての走りは、本人にとっては悔しい区間6位となってしまいました。13人抜きの総合20位まで順位を上げてくれました。4区内山椋太選手(区間32位)・5区神田悦士選手(区間21位)・6区水野悠希選手(区間19位)と順位をキープしてアンカー服部大暉選手(区間20位)へ繋ぎました。服部選手も近藤選手同様、チーム愛知の8位入賞に向けて最後まで必死に走ってくれましたが、残念ながら順位は上がらず20位でのゴールとなりました。

今回の都道府県対抗駅伝で、チーム愛知は選手強化のための早急な対策を計画し実行することが入賞の絶対条件であることを思い知らされ、スタッフはもちろん選手一人ひとりの悔しさを忘れず、大会翌日から強い愛知を取り戻すために再始動しました。



## 男子 総合成績 2時間22分28秒 第20位 F:ふるさと選手

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	相地 一夢(豊川高校)	21分00秒	38位
2区	稲垣 諒也(矢作北中学)	8分47秒	20位
3区	近藤幸太郎(SGH) F	23分44秒	6位
4区	内山 椋太(名経大高蔵高校)	15分13秒	32位
5区	神田 悦士(豊川高校)	26分14秒	21位
6区	水野 悠希(大府西中学)	9分05秒	19位
7区	服部 大暉(トヨタ紡織)	38分25秒	20位

本年度も多くの方々からたくさんの激励とご厚情を頂きありがとうございました。感謝とともに込み上げた悔しいあの思いは、今後チーム愛知が頑張る原動力の1つとなることでしょう。

大会関係各位、ご配慮頂いた所属チームの皆様方には、深く感謝するとともにこの場を借りてお礼申し上げます。今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

(明星 光信)

## 中学男子

145m	15.73 (0.5)	横山 蓮音(安城JY)	[愛知ジュニアオリンピック(瑞穂北) 2023.09.02]
300m	36.63	神谷 流星3+(TSM)	[名古屋地区プレシーズン(瑞穂北) 2023.03.21]
110mJH	14.36 (1.8)	権田 颯志(翔南)	[U16日本陸上(愛媛) 2023.10.22]
4×100mR	41.66	鳥山 流生・今村 琉翔 今泉 成聖・達村 竜斗(愛知選抜)	[名古屋地区選手権 OP(瑞穂北) 2023.09.30]
円盤投	46m80	藤井 勇介(保見)	[U16日本陸上(愛媛) 2023.10.21]

## 中学女子

145m	17.82 (0.4)	布施 一葉(高豊)	[県中学選抜混成・記録会(瑞穂北) 2023.06.25]
200m	24.79 (-0.2)	布施 一葉(高豊)	[愛知中学通信(瑞穂北) 2023.07.09]

(記録情報委員会)

## 記録情報委員会

2023年に更新された日本記録(◎)・県記録(同種目は最高のみ)

## 一般男子

5000m	13.20.11	太田 智樹(トヨタ自動車)	[③ディスタンスチャレンジ(網走) 2023.07.08]
10000m	27.12.53 ◎	太田 智樹(トヨタ自動車)	[日本選手権 10000m(国立) 2023.12.10]
400mH	48.91	小川 大輝(東洋大)	[日本学生対校(熊谷) 2023.09.17]
マラソン	2.06.45	西山 和弥(トヨタ自動車)	[大阪(大阪) 2023.02.26]
30KmW	2.03.30	丸尾 知司(愛知製鋼)	[日本選手権 35KmW 途中(輪島) 2023.04.16]
35KmW	2.25.49	丸尾 知司(愛知製鋼)	[日本選手権 35KmW(輪島) 2023.04.16]

## 一般女子

100mH	12.97	大松 由季(サンドリヨン)	[全日本実業団(長良川) 2023.09.21]
30KmW	2.45.52	則竹 桃佳(中部学院大)	[全日本競歩高島 35KmW 途中(高島) 2023.10.22]
35KmW	3.13.36	則竹 桃佳(中部学院大)	[全日本競歩高島 35KmW(高島) 2023.10.22]

## 高校男子

200m	20.97 (-1.1)	浅井 央真(瑞陵)	[名古屋地区夏季競技会(瑞穂北) 2023.06.10]
400mH	50.14	下田 隼人(豊川)	[全国高校総体(厚別) 2023.08.04]

## 高校女子

300mH	42.37	片山 心菜(中京大中京)	[国民体育大会(鹿児島) 2023.10.15]
-------	-------	--------------	--------------------------

## 年誌資料・広報委員会

「愛知陸協広報」62号編集計画

号数	発行月日	編集内容
「愛知陸協広報」62号	令和6年7月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長のことば</li> <li>・専門委員会活動計画</li> <li>・競技会報告(中部実業団、県高校総体、県高校定通、東海高校総体、県小学生リレー、日本陸上選手権、その他)</li> <li>・特集記事</li> <li>・理事会等会議報告</li> </ul>

(赤尾 和雄)

## 各地区報告

## 名古屋地区陸上競技協会

## 盛況だった陸上教室

陸上教室は瑞穂と知多でそれぞれ3日間開催しました。瑞穂会場では多くの小・中・高校生が参加して、各ブロック別に基礎・基本を中心とした指導が熱心に行われ、大変盛り上がりのある教室となりました。また、学生の指導者が多く参加しており、将来の指導者育成にも大いに貢献できたと思います。

ゲスト指導者として、17年ぶりに女子走幅跳の日本記録を更新した、秦澄美鈴選手をお迎えしました。一方知多会場ではハンマー投げの古旗崇裕選手・墨訓熙選手、やり投げの坂本達哉選手の4選手をお迎えし、クリニックが行なわれました。

両会場共にトップアスリートに直接指導してもらった、練習に取り組む姿勢などを聞いたりすることは、選手やコーチにとって技量を高める大きな財産になったと思います。今後もトップアスリートの招待を続け、魅力ある陸

上教室にすることで参加者を増やし、競技人口を増やすと同時に競技力の向上に貢献できればと思います。



秦選手のクリニックの場面

(可知 裕行)

## 尾張陸上競技協会 最後の尾張駅伝大会

今年度の尾張陸上教室は1月7日(日)、知多市運動公園陸上競技場にて開催しました。例年3回実施していましたが、県営一宮総合運動場の一部公認更新工事のため、1回のみで開催でした。距離的なことを考慮し、小学生のみ県営一宮総合運動場多目的広場にて実施しました。参加者数は減少したものの、充実した教室が行われました。

今年度最後の競技会である第71回尾張駅伝競走大会は、1月21日(日)に県営一宮総合運動場および周辺コースで実施しました。71回を誇る大会も、今大会を最後に幕を閉じることとなりました。その背景には、参加チーム数の減少、審判員数の不足、大幅な赤字運営と多くの課題がありました。今後は、長距離競技者のレベルアップを目指し、駅伝に代わる新しい企画を考えていく予定です。結果については下記のとおりです。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 一般男子の部 (21 km)   | 一般女子の部 (18.9 km) |
| 1 ぬまちゃんず A       | 1 蟹江 AC          |
| 2 ぬまちゃんず B       | 2 AC スカイ         |
| 3 TFO            |                  |
| 高校男子の部 (21 km)   | 高校女子の部 (18.9 km) |
| 1 津島東            | 1 愛知黎明           |
| 2 愛知黎明 A         | 2 津島             |
| 3 愛知黎明 B         | 3 西春             |
| 中学男子の部 (14.7 km) | 中学女子の部 (14.7 km) |
| 1 大口 A           | 1 AC 一宮 Junior   |
| 2 AC一宮 Junior A  | 2 古知野 A          |
| 3 木曾川            | 3 木曾川            |



高校男子のスタート

今年度は競技会の参加人数がかなり減少しましたが、全国大会には例年にも増して多数参加してくれました。指導者の方々の熱意に感謝しております。陸上競技離れが懸念される中、尾張陸上競技協会としても、令和6年度は魅力ある競技会を新しく計画しており、多数の参加を期待しています。尚、県営一宮総合運動場は公認更新部分工事も令和6年3月15日に終了し、利用可能となります。尾張地区唯一の公認競技場を大切に利用して頂けると幸いです。

(青山 充資)

## 西三河陸上競技協会

少子高齢化社会を迎えた今、スポーツ界はそれに加え、多様化時代へと歩み始めています。

昨今の当地区では、小学生大会にその影響が出始めています。ここ数年、小学生友の会登録者数は減少しています。昨年度と今年度の登録者数を比較した結果は表1のとおりです。

表1 小学生友の会登録者数 (西三河)

年度	男子	女子	合計	減少数
2022年	233名	220名	453名	89名
2023年	193名	174名	364名	

それに加えて、年4回開催される大会への参加者も減少しています。昨年度と今年度の出場者数を比較した結果は表2のとおりです。総減少数は191名となっています。

表2 各大会の参加者数の比較

大会名	2023年参加者	2024年参加者	減少数
第1回記録会	324名	290名	34名
第2回記録会	333名	272名	61名
第3回記録会	289名	238名	51名
小学生選手権大会	355名	310名	45名

当然のことながら、大会運営は厳しくなってきました。

そこで、今年度は「西三河小学生陸上競技選手権大会」において、従来主催者が準備していた優勝メダル等について、(株)リオグループホールディングス様の協賛により、優勝者メダルと3位までの入賞者の記念品をご寄贈いただきました。また、運営経費削減はもちろんのこと、運営方法についても見直しをしました。表彰式の際には優勝者イ

インタビューやフォトタイムを設けるなど、陸上競技について、多くの方に興味や関心を持っていただけるような大会運営をいたしました。



表彰式風景

今後は、小学生に限らず、他のカテゴリーにおいても、競技人口の減少が懸念され、現況での大会実施は難しくなってくることが予測されます。さらなる大会の実施方法の見直しや競技人口の増加を目指す取り組み等が急務となっています。また、審判員数も減少傾向にあります。陸上競技に携わる全ての人にとって、有意義で魅力に富んだ運営の在り方を模索すべき時期に来ていると考えています。

昨年度から、未公認の大会ですが、「西尾マラソン」と銘打った大会が実施されています。今年度は、フルマラソンコースを、西尾市役所をスタートし、横須賀公園をゴールとするワンウェイに変更して実施されました。さらに、男女の5kmと小中学生の2km、車いすレース2kmが、1月21日(日)に西尾市内で同時に開催されました。朝から冷たい雨となり、棄権者も多数出ましたが、フルマラソンには、県内外から多数のランナーが参加されました。出場者の完走率は、男子が95.4%、女子が93.6%でした。



フルマラソン 32km付近

この大会は、旧「一色マラソン」を継承する大会であり、メイン種目がハーフマラソンからフルマラソンに変更されたの開催でした。西尾市内をくまなく走り、途中には旧一色マラソンのコースであった、風光明媚な三河湾を眺めながら走ったり、市特産の茶畑の中を走ったりする箇所もありました。大会運営等に携わってくださった皆様には、この大会の成功に向けて、大変ご苦勞なされたのではないかと推察いたしております。男子選手にとって、県内唯一のフルマラソンの機会であり、とても貴重な大会です。今後

も是非続けていっていただきたいと念願いたしております。

(櫻井 一美)

## 東三河陸上競技協会

令和5年度、東三河の陸上競技は、いろいろな場面で愛知の陸上界を盛り上げることができました。前半を沸かせたのが「トラック種目」であったならば、後半は「駅伝」の話題であると断言できます。愛知駅伝では豊橋市の5位が最上位であり、期待されていたのに残念です。しかし、他の駅伝では東三河の存在を強く示してくれました。

中学校駅伝では、男子の牟呂中(豊橋)、女子の西部中(豊川)がそれぞれ優勝テープを切り、愛知県の代表になり、12月17日滋賀県での全国中学校駅伝大会へ出場しました。結果は、牟呂中が27位、西部中が30位と全国のレベルには太刀打ちできなかったというのが正直なところです。しかし、まだまだ、中学生です。これからの競技生活に活かしてくれることを期待しています。

高校駅伝では、豊川高が4年ぶりに男女そろって12月24日に都大路で襷をつなぐことができました。豊川市の竹本市長が見守る中、男子32位、女子23位でゴールしました。こちらも、次年度以降の奮起に期待しています。

正月のニューイヤー駅伝では田原市を中心に活動するトヨタ自動車8年ぶりに王座を奪還したことは、新年早々、うれしいニュースとなりました。また、来シーズンの新加入メンバーには、箱根駅伝で注目された選手もあり、ニューイヤー駅伝の連覇と地元トヨタ自動車から、パリ五輪へ出場する選手が出てくれることにも期待しています。

(石場 治)

## 関係団体報告

### 小学生友の会

2023年度はコロナ渦以前の競技会に戻りつつある中で、各地区大会を含め、6月には日清食品カップ第39回全国小学生陸上競技交流大会愛知県予選会、9月に全国大会が無事開催されましたことは、子どもたちにとってかけがえのない経験になりました。大会運営に関わっていただきました方々に感謝いたします。また11月には愛知県小学生陸上競技選手権大会が行われ、各学年別、全33種目で熱戦が繰り広げられました。女子5年ジャベリックボール投では野田真乃香さん(糸陸)が47m22の県新記録で優勝。男子6年100mでは平岩陸斗君(刈谷AC)が12秒03の大会新記録で優勝しました。スタンドからの応援をうけて、全力で競技をする子どもたちの素敵な笑顔がたくさん見ることができました。

小学生の強化・普及のため、冬期にジュニア強化練習会を3回開催しました。今年度も強化指定選手に選ばれた4年生から6年生の約400人が参加して、真剣にそして楽しく練習に取り組みました。



冬期ジュニア強化練習会のようす

現在、地域でのクラブチームの役割はますます大きくなっています。多くの子どもたちがいろいろなスポーツに触れて、楽しさを体感してほしい。その1つに陸上競技があり、その手助けをできるように友の会が活動していければと考えます。

(八代 香津子)

## 中小体連

来シーズンへ向けて

### 〇県中学駅伝 (11/11 豊田市総合運動公園)

本年度最後の主催事業となる県中学駅伝では、男子は豊橋市立牟呂中学校が初優勝、女子は豊川市立西部中学校が30年ぶりの優勝を飾りました。全国中学校駅伝大会は滋賀県の希望ヶ丘文化公園で行われ、牟呂中学校が27位、豊川西部中学校が30位と健闘することができました。また、愛知県中学校駅伝大会の開催にあたっては、西三河支部中体連の関係各位には絶大なご支援とご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度からは、新城市総合運動公園での開催となります。東三河支部中体連の先生方のご協力があった開催です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 〇次年度の大会予定

昨年の愛媛全中から地域クラブ活動の参加が認められ、今までとは異なる形での参加となりました。愛知県に関しては、地域クラブ活動準備期間として参加を見送った経緯があります。しかしながら、各地区の地域移行が進んでいないことや準備が十分でないため、2024年度も見送ることといたしました。各方面と調整をし、2025年度には実施していきます。よろしくお願いいたします。標準記録や1名1種目の出場条件の変更はありません。

また、県総体に関しては次の種目が追加されます。男子は円盤投、女子は円盤投と棒高跳です。各地区の予選会より実施していきます。他種目と同様に6位までが東海大会への出場権を獲得します。各地区の予選会に向けてのご準備をよろしくお願いいたします。

2024年度のU16陸上競技大会については、三重県で開催されます。この大会の三重県での開催は2026年度までの3年間を予定しています。東海中学総体は、上記にもあるように種目数が増え、会場は昨年と同様に三重県で開催されますので、各方面でのご支援とご協力を賜りながら、選手が日頃の成果を十分発揮できるように実施していきたいと考えております。

### 〇次年度へ向けて

中体連としては、一人でも多くの選手が全国大会へ出場

できるように微力ではありますが、サポートや支援をしていきたいと考えています。全国大会での優勝や入賞が出場者数に対して少ないのが課題ではありますが、昨年も優勝することができた種目もありました。「強い愛知」が戻りつつあります。今後も、競技力をさらに向上させるために各学校の指導はもちろんのこと、各地区の練習会や全県での協力体制が不可欠ではあると考えます。また、2019年度を最後に実施できていない東海ブロック合宿についても、再開できるように準備を進めている状況です。今年度も、陸協ジュニア強化部で実施していただいているジュニア強化練習や各地区の陸上教室や練習会などを通して今後も、チーム愛知が一丸となって選手強化をはかっていきたいと考えています。

(秋山 真一郎)

## 高体連

令和6年度に向けて

コロナウイルス対応が5類に移行し始まった令和5年度のシーズンでしたが、初めのうち観客対応は大変でした。しかし、新人戦からスタンドを解放して、皆さんの応援の下で大会運営をさせていただきました。応援のある中で大会の良さを改めて感じることができました。令和6年度も愛知県では高体連として大きな大会が実施されませんが、県内での盛り上がり期待して、頑張りたいと思います。

来年度も瑞穂陸上競技場は改修中です。総体、新人戦共にマルヤス岡崎龍北スタジアムで開催します。西三河陸上競技協会様には多大なるご協力をいただくこととなりますので、よろしくお願いたします。瑞穂競技場の完成は令和8年3月と伺っています。完成したからとその年にすぐに利用できるかは分かりません。今しばらくは、お世話にならなくてはならないと思っています。運営にも余裕が出てきましたので、収容人数は多くはありませんが、サイドスタンド等の有効利用なども考え、できる限り多くの皆様が来場できるように考えていきたいと思ひます。皆様方のご協力をお願いいたします。

令和6年度の東海総体は岐阜県開催です。また、全国総体は福岡県にて開催されます。ここ数年全国的にも活躍が目立った選手が愛知県には多数いましたが、来年度は若干の不安も感じています。他県の競技レベルも上がってきており、簡単には東海地区を突破できなくなっています。全国への参加者数も少しずつ減少しています。「愛知はいいね」と言われていたましたが、そう簡単ではないのが現状です。選手の皆さんの奮闘を心から期待したいです。

毎回書かせていただいておりますが、陸上競技に参加する生徒数が毎年減少の一途をたどっています。愛知県高校生登録者数も2016年から約1700名減少しています。「数は力」と顧問会議等でもお願をしております。義務教育での部活動の廃止等、部活動の置かれている現状は決して楽観できるものではありません。別競技からのトランスファーを含め、高校から始めてもらえる選手の発掘も急務だと思います。世界に誇れる高校部活動を衰退させるのではなく、良い方向に持っていけるように、皆さんと一緒に考えていかなければならないと思ひます。

2026年のパロマ瑞穂競技場の完成、またその2年後に1983年(昭和58年)から45年ぶりに開催される2028年

全国高校総体で、愛知県高校生が活躍するために、皆様と協力して頑張っていかななくてはと考えています。今後とも高体連の活動にご協力をお願いいたします。

(石井 哲郎)

## 高体連定通部

### 定時制通信制大会について

今年度も、定通陸上競技大会に関するすべての日程を無事終えることができ、関係の先生方、審判の方々には、この場をお借りして感謝申し上げます。

定時制通信制陸上競技の認知度は高くはないと思いますが、多くの生徒が、限られた環境の中で自己を研鑽し、記録の向上を目指したり、上位大会を目指したりしています。またそれだけでなく、個々の課題の解決の一助に陸上競技が貢献していると強く感じています。

近年、縮小傾向にある部活動ですが、定時制通信制も参加生徒数が年々減少しているのが現状です。しかし参加している生徒の表情を見ると、スポーツに参加する楽しさ、競い合うことの清々しさを陸上競技を通じて感じていると思います。今後も一人でも多くの生徒にこのスポーツを通じた達成感や充実感を味わってもらうためにも、定時制通信制の学校には呼びかけをしていきたいと思っています。

定時制通信制大会は年2回の非公認競技会ですが、毎回多くの方々に支えられて競技会を実施することができています。毎回審判員の方々に、しっかり審判業務をしていただいていることで、大会の質が高まっていると感じます。競技経験が少なく招集もままならない生徒たちですが、審判員の方々の正確かつ、教育的配慮を含んだ温かみのある指導のおかげで、生徒たちが大会ごとに成長してくれています。

スポーツ、部活動は個人の意思で、というのが昨今の流れではありますが、すべて個人の意思だけでという、経験が偏ったり、乏しくなってしまう可能性もあると感じます。運動との出会いには導きも大切な要素だと感じます。陸上競技はトップを狙うアスリートから、自己記録更新を目指す人、健康維持など、それぞれの目的に合った方向性の選択が可能です。それぞれのレベルでスタートできる陸上競技だからこそ、多種多様な生徒が在籍する定時制通信制の部活として教育効果を発揮できると実感しております。

来年度も多くの方々の力を借りながら、一人でも多くの生徒の成長を促せるよう、定時制通信制大会の運営を行っていききたいと思います。

(原田 賢一)

## 学連

### 東海学連 2023 年シーズンの総括

今シーズンは、行動制限が緩和され、殆どのスポーツ観戦において声出し応援が解禁となり、競技場内で行われる競技会および公道を使用する駅伝・ロードレースでも声出し応援が解禁となったシーズンである。インカレでは集団応援をする学生たちの姿も昨年よりも目立つようになってきた。東海学連にとっては、感染症が拡大しはじめた2020年に開催を予定していた西日本インカレの中止から3年(2022年大会は愛媛にて再開)を経て、東海地区がホ

ストとなり開催(岐阜)することができた。

また、国内競技会だけではなく、繰り返し開催延期となっていたワールドユニバーシティーズゲームズ2021(WUG、成都・中国)も再開され、ようやく学生アスリートにも平穏な競技環境が戻ってきた。本号では、2023年に活躍した選手(チーム)、誕生した新記録、タイトルなどに触れながら2024シーズンに向けた展望を紹介する。

### ■田中 友梨 選手(至学館大学4年)

昨シーズンでも紹介した田中選手(7種競技)は、今季の東海インカレと西日本インカレは欠場したものの、春先の日本学生個人選手権で連覇を飾り、WUG日本代表選手に選出された。日本選手権前後ではコンディションを崩していたようだが、9月の日本学生対校(熊谷)では連覇をおさめることができた。

### ■名城大学/女子長距離

2023シーズンも学生駅伝界では圧倒的な強さで全日本大学女子駅伝7年連続8回目、全日本大学女子選抜駅伝(富士山駅伝)6連覇という成績をおさめた。第11回を迎えた富士山駅伝は、歴代優勝チームが立命館大学と名城大学の2チームのみで、名城大は2023年大会で立命館大の優勝数を上回った。ロードのシーズンだけではなく、トラックシーズンでも常に上位で活躍する名城大であるが、WUG日本代表選手として、原田紗希選手(2年生)が出場し、ハーフマラソン団体で銀メダルを獲得した。

末筆ではございますが、日頃から学生競技の発展と向上のために競技会運営および審判派遣にご協力いただいている愛知陸協審判員の方々には、本誌をもって感謝申し上げます。2024年シーズンもご指導、ご協力頂けますよう宜しくお願い致します。

### 表1:2023年シーズンの主な競技成績

#### 【男子】

前川 齊幸(中京大・院2) 十種競技  
日本選手権3位(7282)、日本学生対校優勝(7189)

盛 耕太郎(東海学園大・1) 800m 1.51.68  
U20日本選手権優勝

#### 【女子】

田中 友梨(至学館大4) 7種競技  
WUG代表、日本インカレ優勝(5391)、  
日本学生個人選手権優勝(5545)

原田 紗希(名城大2) 長距離  
WUGハーフマラソン団体2位、東アジアハーフマラソン2位、  
日本学生個人選手権10000m5位、日本学生対校10000m5位、  
U20日本選手権1500m6位/3000m2位

名城大学 駅伝  
全日本大学女子駅伝優勝、全日本大学女子選抜駅伝優勝、  
東海学生女子駅伝優勝

(黒須 雅弘)

## 実業団

### 令和5年度を振り返って

実業団の大会では、日本選手権、全日本実業団、ニューイヤー駅伝について報告をさせていただきます。

まず、日本選手権では、1500mの河村 一輝選手(トイエネック)が3分38秒45の大会新記録で優勝、円盤投の湯上 剛輝選手(トヨタ自動車)が56m78cmで第2位。注

目の100mでは、社会人1年目の本郷汰樹選手(オノテック)が10秒21(-0.2)の5位と健闘し、パリ五輪出場への門を叩きました。

全日本実業団では、野口雄大選手(トーエネック)が1500m 3分43秒16で優勝、5000mではジョセフ カランジャ選手(愛知製鋼)が13分27秒31で優勝、3000mSCでは、フィレモン キブラカット選手(愛三工業)が8分36秒47で優勝、同じく愛三工業の新家裕太郎選手が8分43秒19で2位、円盤投の湯上剛輝選手(トヨタ自動車)は、日本選手権と同じ2位で56m72を記録しました。

また、女子の100mHの大松由季選手(サンドリヨン)が自身初となる12秒台の12秒97で優勝し、日本記録保持者の福部真子選手(日本建設工業)に競り勝ち、パリ五輪出場へ大きく前進しました。



優勝のテープを切るアンカーの服部選手

ニューイヤー駅伝優勝のトヨタメンバー

元日に開催されましたニューイヤー駅伝では、トヨタ自動車が2区の太田智樹選手が区間賞の走りで首位に立ち、2位に約2分の差をつける4時間49分02秒と、昨年の3位から頂点に返り咲きました。

(中村 博之)

## マスターズ陸上

日頃は愛知マスターズ陸上へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

まず、昨年10月に開催された第44回全日本マスターズ選手権の報告です。10月7～9日の日程で、山口県 維新みらいふスタジアムにおいて開催されました。大会は3日間とも大きく天候が崩れることなく、秋風を感じながら気持ちよく競技を楽しみました。愛知県からは男子89名、女子25名の計114名の選手が延べ153種目にエントリーしました。久しぶりに会う全国のライバルたちとの会話も弾み、競技を通じて交流を深めることができました。

本大会の最高齢者は、沖縄県の亀濱敏夫さん97歳でM95クラスの100mと200mに出場され、100mを23秒16、200mを49秒89と見事な走りを見せ、会場からは大きな歓声が上がりました。

### ●愛知県選手 競技・クラス別での優勝者

#### <男子>

3000m	M60	藤城 健	10.30.26
5000m	M30	山本 幸大	20.17.10
5000w	M35	中尾 圭	29.18.77
4×400mR	M-24	武野 有良・丹羽 祥也・川村 渉斗・林 哲生	3.31.13
棒高跳	M30	一ノ瀬 航	4m20
三段跳	M60	池田 光司	10m36
やり投	M45	花井 章宏	55m74

砲丸投	M80	山田 博嗣	9m65
ハンマー投	M80	山田 博嗣	39m49 *大会新

#### <女子>

100m	W60	八代香津子	15.01
200m	W55	宮本 百合	28.16 *大会新
400m	W60	碓井由紀子	1.13.14
1500m	W45	宇都宮美香	5.17.34
1500m	W65	中山 淳子	5.43.33 *日本新
3000m	W55	横山 龍子	12.00.43
3000m	W65	中山 淳子	11.53.78 *日本新
4×100mR	W50	谷寄 好美・宮本 百合・山崎めぐみ・釜 純子	56.33
走高跳	W50	釜 純子	1m44
走高跳	W65	木村 和代	0m99
走幅跳	W50	山崎めぐみ	4m83
三段跳	W65	木村 和代	7m33
やり投	W60	八代香津子	29m90 *日本新
円盤投	W75	加藤 敦子	23m10
ハンマー投	W75	加藤 敦子	24m02

### 令和6年度の競技会予定

令和6年のトラックシーズンは4月7日の第92回記録会を皮切りに下記の通りの競技日程が決定しています。

なお、10月19日開催の東海マスターズ選手権大会は、知多郡美浜町に本年開設予定の「美浜町運動公園陸上競技場」を使用する予定です。

4月7日(日)

第92回記録会 ウェーブスタジアム刈谷

5月5日(日)

第93回記録会 ウェーブスタジアム刈谷

6月22日(土)

第94回記録会 ウェーブスタジアム刈谷

9月21日(土)～23日(月・祝)

第45回全日本マスターズ選手権大会 京都市西京極運動公園

10月19日(土)

第23回東海マスターズ選手権大会 美浜町運動公園

本年も、生涯スポーツとしてのマスターズ陸上が更に盛り上がるよう各大会の運営に取り組んで参ります。

今後とも、愛知マスターズの活動に、ご理解ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

(兵藤 隆昭)

## OB・OG会

11月29日(水)午前10時、尾張一宮駅に各地区からOB・OG会メンバー25名が集まり、「秋の行事・懇親会」がスタートしました。今回は、尾張地区世話人のお世話で、尾張国の一宮として崇められた真清田神社の参拝と見学、木曾三川公園の138タワーからの眺望を楽しみ、昼食会場へ移動。昼食会では久しぶりにお会いする顔や、今回ご参加いただけなかった方からのショートメッセージも世話人がご用意いただき、美味しいお料理と楽しいお話で盛り上がりました。

そして、いよいよ国宝犬山城。城内は地元の方による解説を聞きながらの見学でした。信長、秀吉、家康がそれぞれの時代に、この城を手にしたことで天下人への道を切り

開きました。天守からの濃尾平野、小牧城、そして木曾川の眺望を、歴史を作った者たちと同じ眺望を今私たちも観ているかと思う、と感慨深いものを感じました。

OB・OG会は、皆さんの負担を考え近年は1日の小旅行計画としています。次回もぜひ多くの皆様のご参加お待ちしております。なお、本会に入会希望は随時受け付けております。各地区世話人までお問い合わせください。



国宝犬山城をバックに

(水野 久)

## 特集記事

### 全日本大学駅伝の出場と東海学生駅伝優勝

今シーズン、名古屋大学陸上部長距離パートは11年ぶりの全日本大学駅伝の出場と、18年ぶりの東海学生駅伝優勝を果たし、2024年度の出雲駅伝の出場権を獲得しました。トラックでも好記録が続出し、5000mの自己記録15分10秒以内の選手が現在16名おり、選手層も厚くなりました。これらの要因は3つあると考えています。

#### ① 夏合宿での継続的なトレーニング

高地トレーニングを平均15日程度、多い選手だと40日程度行い、その間涼しく陸上に集中できる環境で距離を踏めたことで、脚作りと心肺機能の向上に繋がりました。また、特に秋シーズンは怪我による練習を離脱する選手は少数でした。合宿中の夜に自主的に皆で集まってケアをするなど、ケアに対する意識の高まりやトレーナーや治療院に行く回数が増やしたことが怪我の防止に役立っています。

#### ② 予選会や駅伝における役割の明確化

必要以上に重圧を感じずに走れるように自身の等身大の役割を考えたことが結果に繋がりました。

#### ③ ロード練習の実施

9月以降ほぼ毎週近隣の緑地公園にて練習を行ったことで、ロードに慣れた状態で駅伝を走ることができました。

今年の6月には全日本大学駅伝の予選会が行われます。今私たちは2年連続の全日本大学駅伝の出場を目標に練習しています。そのためにはチーム全体の実力の底上げが急務ですが、昨年予選会を突破した経験は各々の慢心ではなく自信に繋がっています。今後も予選会、さらには出雲駅伝に向けてチーム一丸となって邁進していきます。



11年ぶりの予選会突破を果たし喜ぶ選手たち

(名古屋大学 吉原 諒)

### 全国高校駅伝に出場して

～受け継がれる意志～

毎年12月に京都で行われる全国高校駅伝。たった一日。されど365日全てをかけて目指すべきその一日の為に、僕達駅伝部は日々練習に取り組んできた。

今年男子駅伝部は2年ぶりの全国出場をつかんだ。県大会で敗れたライバル校の選手たちの想い、応援してくださるたくさんの方達の想い、その全てを背負い僕達は京都の地に立っていた。

ケガや貧血に苦しんだ者。勉強との両立に苦しんだ者。ここに来るまで、辛く苦しい3年間だった。それでも自分達は豊川高校の名を背負い、全国の舞台に返り咲くのだと強い信念を持って掴んだ都大路の切符だった。しかし、メンバーの中に過去に都大路を走った人間はいない。足が震えた。大きなプレッシャーに押し潰されそうになりながらも、この瞬間を楽しもう、と自分達を鼓舞して挑んだ大舞台だった。

しかし、結果は目標には程遠く、改めて全国の壁の高さを身を持って痛感することとなった。みんなに申し訳ない気持ちで一杯だった。でも同時に各々が、「あの時に諦めずに続けてきて良かった」と、心から思ったはずだ。これからの僕達を突き動かすものは、応援してくださる全ての人達への感謝と、絶対に箱根を走るんだという不屈の精神だ。全国高校駅伝が与えてくれたこの経験を、僕達は無駄にはしない。そして後輩達にこの想いは引き継がれている。さあ、来年が楽しみだ。

(豊川高校駅伝部男子主将 杉田 晃大)

### 新たに受け継がれる一歩

昨年12月24日、全国高校駅伝大会に出場しました。号砲が鳴り響き、チーム全員の思いを一つに私たちは襷を繋ぎました。この大会の結果は悔しいものになりましたが、貴重な経験となりました。

豊川高校女子駅伝部全員が口を揃えて「都大路優勝」と目標を決めてから、ただ速い選手ではなく、強い選手を目指して一人一人が練習をしてきました。2年連続出場でプレッシャーもありましたが、全国の舞台で走れることに感謝と嬉しい気持ちでいっぱいでした。当日は気温も低すぎず、太陽も輝いていて良い天気でした。仲間の笑顔とエールをもらい、スタートラインに立ち、走り出しました。大きな集団に囲まれて走っていると、周りからの足音や呼吸が聞こえてきて、より一層緊張感が高まりました。沿道か

ら聞こえてくる応援に力をもらい、必死に足を進めました。あと一秒、あと一步。しかし前は見えているのに追いつけず、どんどん差をつけられました。残りの選手も健闘し、23位。全国は甘くない。今の私たちでは戦えなかったのだとレベルの高さを感じ、涙で幕を閉じました。

今でも私たちの目標は変わりません。絶対に全国で戦えるチームになります。この悔しい思いを胸に笑顔でゴールし嬉し涙で幕を閉じられるよう、チーム一丸となって頑張っていきます。

(豊川高校駅伝部女子新主将 秋竹 凜音)

## 全国中学駅伝大会に出場して

僕が全国大会に出場して感じたことは、全国のレベルが高いと実感したことです。やはり日本一を決める大会なので思った結果にはなれなかったけど、自分がずっと憧れてきた舞台で走ることができ、とても嬉しかったです。

1区・呉山海斗(3年)

2年生の頃までは練習についていくのがやっとでした。それが悔しくて毎日のように自主練をし、3000mのタイムを1分30秒更新しました。全国大会では一人一人が全力を出し切って仲間と絆を深め、素晴らしい経験ができました。

2区・森田皐暉(3年)

今年度は全国駅伝に出場することができましたが、個人競技での全国出場を果たすことができませんでした。この悔しさをバネに、来年度は日々の練習を大事にして、個人でも全国に通用する選手になれるよう頑張ります。

3区・小瀧直央(3年)

全国に出場したからにはいい結果を残したかったので、正直悔しい気持ちが大きいです。しかし、人生で初めて全国の舞台を経験することができたので、走ることが更に好きになりました。応援していただきありがとうございました。

4区・波多野翔太(3年)

全国大会では、みんなが繋いでくれたタスキとともにみんなの思いを背負い、全力で走り切ることができて良かったです。そして、来年度も全国大会に出場することを目指し、仲間と切磋琢磨し合って頑張ります。

5区・石川塔梧(2年)

仲間みんなと日々の辛い練習を乗り越えてきたからこそ、全国に出場できたのだと思います。この仲間じゃなかったら出場することができなかったと思うので、感謝しています。来年も仲間と支え合いながら、頑張ります。

6区・石川継梧(2年)



感激の県大会優勝

(牟呂中駅伝部)

## 全国という大舞台

令和5年12月17日、寒風吹く快晴の中、全国大会の舞台に立つことができました。本当に自分がこの舞台に立っているなんて、夢のようでした。

夏の大会が終わった陸上競技部の3年生は、駅伝部への入部は自由となっていました。駅伝は「走る」だけでなく「つなぐ」という楽しさもあります。私は強く頼もしい後輩に恵まれたので、仲間たちが受験勉強を選択していく中、もう一度「走る」ことに挑戦すると決めました。部活動でのきつい練習も自分を追い込み、チームに貢献しようと努力を続けました。次第に私は「どこまで行けるんだろう」という気持ちから「絶対に全国大会に出場したい」という強い思いへと変化していることに気が付きました。自分に勝つ、限界を超えるということが本当に分かった気がして、とても嬉しかったです。

大会当日は「楽しんで走ろう」と心に決め、不安や緊張に打ち勝つことができました。心の底から楽しんで走ることができ、チームで唯一の3年生である私を全国大会に連れていきたいと言ってくれた後輩に、タスキをつなぐことができました。思うような結果は出せませんでした。こんな大舞台で走れたことは感謝でいっぱいでした。3年間頑張ってきて本当によかったなど、達成感を感じることができました。



全力で走り切って

(豊川市立西部中学校 駅伝部主将 荻葉 優那)

## 自分を信じて跳ぶ

昨年夏の北海道インターハイでは、走幅跳で7位入賞し、かごしま国体の選手団に選んで頂き、6位入賞という結果を残すことができました。今までの私では、想像することができない貴重な1年となりました。

私の走幅跳の初戦は、昨年度の1年生大会です。今年度の総体地区予選では、経験不足だったため、具体的な目標はまだありませんでした。しかし、初めて7mを超えたとき「もっと遠くに跳びたい」という気持ちに変わりました。初めての県大会、東海大会では、会場の雰囲気や他の選手の気迫に圧倒されました。東海大会では、2本連続ファールを出してしまい、正直焦ってしまいました。でも、「自分を信じて跳ぶ」と心に決め、攻めの姿勢で3本目に挑みました。記録は、7m33cmの自己新記録で3位入賞となり、インターハイへの出場権を勝ち取ることができました。インターハイでも、東海大会の時と同じく強い気持ちを持って挑みました。予選では、自己タイ記録を出すことができました。全国大会や国体という大きな舞台で跳躍できた経験は、自分自身が大きなプレッシャーに動じず、自分の跳躍を信じて挑戦できる力を持っていることを実感す

るといい良い機会になりました。

たくさんの大会を経験したことで、現時点での強みや弱みを知ることもできました。来年度は、自分に足りない体力や技術を補い、明確な目標を持ち、さらに成長できるように頑張ります。



(愛知県立安城東高等学校 平林 駿登)

## 最後のインターハイに向けて

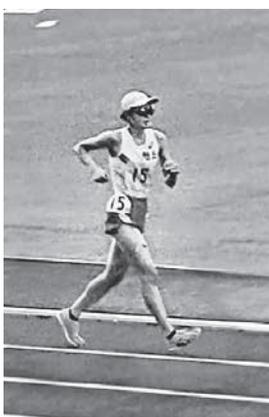
旭丘高校で競歩をやっている寺本瑛美です。高校に入ってから陸上競技をはじめ、1年の夏から競歩に取り組んでいます。今年度はいいこともありましたが、そうでないこともたくさんありました。新しいシーズンに向けて今こんなことを考えています。

まずは追い込んだ練習を継続して行うための怪我をしない体づくりが目標です。今年度は疲労骨折や肉離れなどで練習が積めない期間が多々ありました。その反省を踏まえて体の声に耳を傾け、休むべき時には無理をせず休むことが私にとって一番大切なことであると思っています。食生活にも正しい知識を持って向き合い、健康管理をしっかりおこなっていきます。そのうえで私は自分の限界を勝手に決めず、常に向上心を持って、妥協は一切しないと決めています。

また、今年度のインターハイで初めて失格になり、自分のフォームにはまだまだ改善の余地があることに気付かされたため、自分のレースや練習の動画を見ることや、ライバルと自分を比べることで自分には何が足りていないのか、より一層自己分析をするようになりました。今年度は調整ミスで万全の状態に挑むことができなかったレースや出場できなかったレースがあるので、大事なレースにきちんと調子を合わせられるようにするのも私の務めだと身をもって感じました。

今年度のインターハイではやはり一番の大舞台ということもあり、今までの全国大会とは比べものにならないほど緊張してしまい、自分の思い通りのレースができませんでした。最後は今までの練習を、そして自分を信じて、もう二度と悔しさを味わうことがないように全力で挑みたいと思います。

(旭丘高校 寺本 瑛美)



## 全日本実業団 100m H 12 秒台

昨年の全日本実業団で、初めて全国大会という舞台で優勝しました。記録は12秒97、日本歴代6位にあたります。日本記録保持者や日本代表選手もいる中で、きっと誰も予想してなかったと思います。私自身も12秒台を出して優勝する確証はなかったのが内心びっくりしました。3台目以降から自然と力が入り、7台目以降からハードルに当たらないように意識して走りました。

普段、練習は一人で行い、毎日ハードルを跳んでいます。練習で10台行う時にタイムを測り、調子が良ければ12秒台を出すことはできていたので、あとは本番で発揮できるかどうかでした。本番に弱いタイプでしたが、練習していく中で少しずつ自信がついていったこと、周りを気にしなくなったことが今回の結果に繋がったと思います。

私は小学1年生の頃から陸上を始めて、5・6年生の時に100mで全国大会に出場、中学、高校、大学は100mHで全国大会を経験しています。どのステージも予選落ちばかりでした。社会人になって、陸上を続けるか迷いましたが、単純に走ることが好きなこと、必死になってやり切ったという感覚がなかったので、どうせ続けるなら自分の限界まで取り組んでみようと思い、続けることを選びました。

2024年は勝負の年ですが、どんな時でも「走ることが好き」な気持ちを忘れずにがんばります。



パリオリンピック目指して

(サンドリオン 大松 由季)

## デカスロン大会で高校新記録

今大会の開催にあたり、愛知陸上競技協会をはじめ競技役員、補助員、大会関係者の皆様のご協力に大変感謝申し上げます。

第28回目を迎えるにあたり大会内容の検討改善を行いました。コロナを経て従来実施していた形式に戻すことは容易ではなく、大会の方向性を再検討し今大会を迎えました。

今年は例年と比較し気温が高く、11月とは思えない暖かい中での競技会となりました。初日は風が強く、各選手が風の影響を考えながら競技を続けることとなりましたが、2日間を通して混成競技には適した環境の中で大会を終えることができました。

今大会では、7年ぶりの八種競技高校記録の更新がありました。全国高校総体八種競技を高1、高2と連覇している高橋 諒選手(桐朋3東京)が100mから好記録発進し、勢いそのまま6264点と従来の記録を50点更新することと

なりました。従来の高校記録も当大会での樹立であり、この大会が2度に渡り高校記録の更新に携わることができたことは大変喜ばしいことでした。

今大会への出場を通し、混成競技の楽しさや自己の可能性を発見することで、新たな陸上競技の魅力を感じていただけの大会を目指し、次年度へ向け進めていきたいと思えます。

最後になりますが、大会にご参加いただいた全国各地の選手及び関係者の方々に感謝申し上げます。



2日間8種目を戦って  
(愛知デカスロンチーム 石沢 雅俊)

## 競技会報告

### 第26回東海高等学校新人陸上競技選手権大会 2023年10月28日(土)・29日(日) 三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場

#### 男子 (3位入賞のみ) (GR：大会新)

種目	順位	氏名	所属	記録
200m	1	浅井 央真	瑞陵	21.28
	2	鈴木 颯人	愛産大三河	21.75
	2	小野 真大	名古屋大谷	21.75
400m	2	鈴木 蒼生	至学館	48.45
800m	1	加納 駿翔	岡崎城西	1:55.26
1500m	1	水野 颯也	津島東	3:55.06 GR
	3	間瀬 凌成	豊橋南	3:57.85
5000m	1	間瀬 凌成	豊橋南	15:05.72
	3	豊田 雄大	豊田大谷	15:10.30
110mH	3	杉浦 颯志	安城学園	14.42
400mH	1	杉浦 颯志	安城学園	54.02
3000mSC	1	安田 怜生	名古屋大谷	9:27.65
	2	原田 侑宜	名経大高蔵	9:29.26
5000mW	3	杉山 快斗	千種	22:46.14
4 × 100mR	3	森下 蒼 木林 悠翔 内藤 真周 卷口 周平	豊川	41.52
4 × 400mR	2	富川 空翔 上村 玲大 吉野 朱祐 清水 幸太郎	安城学園	3:20.17
	3	小島 讓 川添 連 岡田 洋翔 高井 佑太	中京大中京	3:20.40
走高跳	3	伊藤 望亜	誠信	1.93
棒高跳	2	谷口 海斗	中京大中京	4.80
走幅跳	1	磯貝 洋聡	安城学園	7.13
	2	平林 駿登	安城東	7.12
	3	齋藤 悠羽	豊橋南	7.07
三段跳	1	中村 光希	名城大附	15.46
円盤投	1	岩瀬 一輝	三好	46.49

ハンマー投	1	平 煌成	三好	52.57
	3	生森 直希	名古屋大谷	51.45

#### 女子 (3位入賞のみ) (GR：大会新)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	1	岡田 翠	中京大中京	11.75
	3	津川 愛依	時習館	12.06
200m	1	眞田 あこ	豊橋南	24.62
	3	佐藤 俐有	至学館	24.82
400m	1	森 那帆	中京大中京	56.67
	2	小川 心優	福祉大付	57.05
800m	1	小川 遥妃	豊橋南	2:16.55
1500m	1	松本 紗直	旭丘	4:44.89
	2	児玉 彩花	光ヶ丘女子	4:45.68
3000m	1	高木 杏珠	愛知	10:01.56
	2	松本 紗直	旭丘	10:03.92
100mH	3	三好 澄果	豊川	13.97
400mH	1	杉藤 葵	中京大中京	1:04.81
	2	小島 奈々	岡崎城西	1:05.15
5000mW	1	寺本 瑛美	旭丘	23:54.24
	2	川原 愛夏	豊川	25:03.37
4 × 100mR	1	時任 陽菜 山本 遥 坂本 茜翠 岡田	中京大中京	46.67 GR
	2	谷口 花妃 浦神 凛香 佐藤 朱里 佐藤 俐有	至学館	47.63
	3	彦坂 莉朱 佐竹 愛 槽谷 朋葉 眞田 あこ	豊橋南	47.81
4 × 400mR	1	佐野 日香 高塚 虹 菊田 彩 森 那帆	中京大中京	3:57.54
	2	筒井 優佳 鈴木 瑚々 松山 由奈 松澤 奈奈	安城学園	3:58.88
走高跳	1	今浦 彩葉	中京大中京	1.64
棒高跳	1	岡部 陽奈	岡崎	3.20
走幅跳	2	水野文由里	中京大中京	5.84
砲丸投	2	木下みなみ	安城学園	12.31
円盤投	1	成田 沙穂	中京大中京	35.59
ハンマー投	2	尾崎 蒼月美	安城学園	42.89
	3	上出 聖華	名古屋大谷	41.60
やり投	1	佐々木 凜娃	三好	43.27

### 第5回愛知県中学生新人陸上競技大会 2023年10月28日(土)・29日(日) パロマ瑞穂北陸上競技場

#### 男子 (GR：大会新)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	金城 祐 11.66 知立南	北村早千都 11.67 野間	三好 悠介 11.69 ライオンハート
	星野 月音 10.95 田原東部	北村 聡祐 11.08 稲沢 ACJ	間川 連斗 11.35 JACT
2年 100m	達村 竜斗 10.88 GR JSC	今泉 成聖 10.98 小坂井	鳥山 流生 10.98 豊川西部
	浮田 兆 23.10 GR TSM	小島 昊大 23.50 GR 岡崎東海	岸川 智稀 23.84 宮田
400m	加藤 遼大 52.47 愛知つばきTCA	半谷 颯佑 52.86 有松	堀 天人 53.43 桜田
	中熊 輝翔 2:07.09 前林	深谷 将寛 2:07.84 東浦	菅原 秀太 2:09.58 瀬戸南山

第37回愛知県小学生陸上競技選手権大会
2023年11月3日(金・祝) パロマ瑞穂北陸上競技場

Table with 4 columns and 10 rows showing results for 1500m, 3000m, 110mH, 4x100mR, 走高跳, 棒高跳, 走幅跳, 砲丸投, 円盤投.

男子 (GR:大会新)

Table with 4 columns and 20 rows showing results for 男子陸上競技選手権大会 across various events like 50m, 100m, 200m, etc.

女子 (GR:大会新)

Table with 4 columns and 15 rows showing results for 女子陸上競技選手権大会 across various events like 100m, 200m, 400m, etc.

女子 (MR:県小新) (GR:大会新)

Table with 4 columns and 20 rows showing results for 女子MR陸上競技選手権大会 across various events like 50m, 100m, 200m, etc.

第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

2023年10月29日(日)

弘進ゴムアスリートパーク仙台発着 6区間 38.0km

1 名城大 2.04.29

(米澤奈々香・力丸 楓・石松愛朱加・藪谷 奈瑠・原田 紗希・谷本 七星)

区間賞

Table with 4 columns: 区間, 氏名, 学校名, 記録. Shows 3区 (5.8km) and 6区 (7.6km) winners.

小学5年混合 4×100mR	JAC 武豊 57.95 氏原 芹夏 井澤 萌陽 加藤 向大 西尾 大良	たかはま陸上 58.49 佐藤 莉紗 花井 萌彩 山中 翔弘 橋本 弘	田原陸上 1.00.71 中村 柚莉 鈴木 愛都 鈴木 雨花 門間 葵生
小学6年混合 4×100mR	田原陸上 51.33 塚原 舞空 山本 依那 佐藤 遼 齋藤 史玖	なごや陸上 51.89 佐藤 貴世子 田村 優芽 澤野 凛太郎 高岸 柚瑠	上郷 JAC 53.59 黒石 大雅 伊藤 佳心 三浦 愛珠 伊藤 悠翔

**秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝対校選手権大会**  
2023年11月5日(日)  
熱田神宮正門前～伊勢神宮内宮宇治橋前 8区間 106.8km



19 名古屋大 5.36.54

(小川 海星・河崎 憲祐・阿部 祥典・吉原 諒・加藤 太一・重田 直賢・森川 陽之・村瀬 稜治)

**令和5年度愛知県高等学校駅伝競走大会**  
2023年11月5日(日)  
一宮市大野極楽寺公園・木曾川沿川サイクリングコース

男子成績

1 豊川 2.10.12

(神田 悦士・鷲野 遥都・相地 一夢・佐野 鈴太・鈴木 駿介・近藤琳太郎・杉田 晃大)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 2 名経大高蔵 2.11.38 | 6 愛知黎明 2.16.47  |
| 3 愛知 2.12.25    | 7 岡崎城西 2.17.17  |
| 4 豊田大谷 2.13.35  | 8 科技高豊田 2.18.55 |
| 5 中京大中京 2.15.53 |                 |

区間賞

区間	氏名	所属	記録
1区	阿部 紘也	中部大第一	30.28
2区	田中 智稀	名経大高蔵	8.35
3区	相地 一夢	豊川	24.54
4区	佐野 鈴太	豊川	25.05
5区	鈴木 駿介	豊川	8.45
6区	鈴木 富大	愛知	15.16
7区	吉村 颯音	名経大高蔵	15.32

女子成績

1 豊川 1.11.38

(秋竹 凜音・藤田 紅良・小山 和月・佐藤優乃花・野村 通子)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 2 豊田大谷 1.12.07  | 6 岡崎城西 1.16.59  |
| 3 安城学園 1.14.57  | 7 光ヶ丘女子 1.17.14 |
| 4 人環大岡崎 1.15.08 | 8 中京大中京 1.19.15 |
| 5 愛知 1.16.30    |                 |

区間賞

区間	氏名	所属	記録
1区	秋竹 凜音	豊川	20.02
2区	藤田 紅良	豊川	13.51
3区	森 千莉	豊田大谷	9.52
4区	嵯峨崎恋花	豊田大谷	10.14
5区	野村 通子	豊川	17.15

**第72回愛知県中学校駅伝大会**  
2023年11月11日(土) 豊田市運動公園陸上競技場周回コース

順位	男子 6区間 18.0km	女子 5区間 12.0km
1	牟呂 57.32	豊川西部 42.41
2	大口 57.47	矢作北 43.06
3	二川 58.05	江南北部 43.24
4	矢作北 58.16	新香山 43.43
5	六ツ美北 58.22	竜海 44.11
6	豊橋中部 58.34	阿久比 44.23
7	本郷 58.58	千郷 44.36
8	瀬戸南山 59.04	宮田 45.19

**2023年第2回駅伝強化長距離競技会**  
2023年11月11日(土) 物産フードサイエンス1969知多スタジアム

種目	1位	2位	3位
中学男子 3000m	中島 康喜 9.18.42 ラクシス	松永 惟吹 9.22.98 ラクシス	平野 裕介 9.32.44 野間
男子 5000m	阿部 紘也 14.23.45 中部大第一高	内山 椋太 14.23.81 名経大高蔵高	相地 一夢 14.30.11 豊川高
男子 5000mW	伊里 友希 22.24.38 名古屋大	永山 大志 22.53.62 豊明高	伊藤 青羽 23.51.97 松蔭高
女子 3000m	火山 華 9.49.35 安城学園高	平泉 心穂 9.53.81 中部大第一高	杉浦 華夏 10.02.84 岡崎城西高
女子 5000mW	川邊のぞみ 24.19.24 名古屋大	川原 愛夏 24.35.19 豊川高	織田 晃帆 24.43.79 瑞陵高

**第63回中部実業団対抗駅伝競走大会**  
2023年11月12日(日)  
はなとき通り往復 6区間80.5km

成績(愛知県分)

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1 トヨタ自動車 3.53.55 | 5 中央発條 4.00.04    |
| 2 トヨタ紡織 3.55.52  | 7 トーエネック 4.01.34  |
| 3 愛三工業 3.57.23   | 8 I.A.R.C 4.18.22 |
| 4 愛知製鋼 3.58.30   |                   |

区間賞

区間	氏名	所属	記録
1区(12.0km)	児玉 悠輔	愛知製鋼	35.43
2区(8.3km)	マルイマニエル	トヨタ紡織	22.51
3区(12.2km)	田中 秀幸	トヨタ自動車	34.58
4区(15.5km)	太田 智樹	トヨタ自動車	44.18
5区(12.2km)	野中 優志	トヨタ自動車	35.55
6区(8.5km)	服部 勇馬	トヨタ自動車	24.41
7区(11.8km)	大石 港与	トヨタ自動車	34.19

**2023年愛知陸協長距離競技会**  
2023年11月12日(日) 物産フードサイエンス1969知多スタジアム

種目	1位	2位	3位
男子 3000m	林 祐一郎 9.06.99 愛知黎明高	加藤 唯人 9.09.39 愛知黎明高	平野 奏翔 9.22.75 愛知黎明高
男子 5000m	鎌田 蒼太 15.57.56 一宮西高	牧野 将 15.59.26 I.A.R.C	柴田 健佑 16.13.07 旭丘高
女子 3000m	馬場 虹羽 10.19.32 AC一宮J	南 奈々恵 10.34.68 愛知黎明高	巨島 亜美 10.41.65 一宮西高
女子 5000m	野村 萌衣 18.27.71 一宮西高	五藤 遥 18.28.28 愛知黎明高	大原理恵子 19.44.98 中部学院大

**2023年第3回駅伝強化長距離競技会**  
2023年11月18日(土) パロマ瑞穂北陸上競技場

種目	1位	2位	3位
一般高校男子 3000m	山崎 優汰 8.48.75 愛知黎明高	宮下 颯汰 8.54.99 中京大中京高	國居 寛大 9.03.19 至学館大
中学男子 3000m	水野 悠希 9.05.51 愛知陸協	稲垣 諒也 9.06.51 矢作北	日比野嵩真 9.12.17 チーム大口
一般高校男子 5000m	高畑 祐樹 14.28.38 トーエネック	大迫 汰希 15.08.21 愛知工業大	和久田 涼 15.10.84 中京大中京高
一般高校女子 3000m	石川 桜子 9.46.59 豊田大谷高	中馬 蘭奈 9.46.86 豊田大谷高	松本 紗直 9.58.06 旭丘高
中学女子 3000m	渡邊 真瑚 10.14.71 YRC	馬場 虹羽 10.18.12 AC一宮J	古川 蒼柊 10.32.78 TFF

**第43回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会**  
2023年11月26日(日) 松島町文化観光交流会館~弘進ゴムアスリートパーク仙台  
6区間 42.195km

25 豊田自動織機 2.23.54  
(逸見 亜優・吉田 莉帆・篠下 明音・ヘレン エカラレ・藤田 あい・原田まりん)

**男子第72回・女子第34回東海高等学校駅伝競走大会**  
2023年11月26日(日) 小笠山運動公園内高校駅伝周回コース

女子 8位入賞

- 1 豊田大谷 1.09.44 全国大会出場権獲得  
(石川 桜子・山本 滝穂・森 千莉・嵯峨崎恋花・中馬 蘭奈)
- 3 豊川 1.11.39
- 6 人環大岡崎 1.12.59
- 7 安城学園 1.13.23

区間賞

区間	氏名	所属	記録
2区 (4.0975km)	秋竹 凜音	豊川	13.26
3区 (3km)	森 千莉	豊田大谷	9.45
4区 (3km)	藤田 紅良	豊川	9.43
5区 (5km)	中馬 蘭奈	豊田大谷	16.29

男子 8位入賞

- 1 豊川 2.08.54  
(蟹江 隼永・杉田 晃大・佐野 鈴木・近藤琳太郎・相地 一夢・伊藤 颯汰・神田 悦士)
- 4 愛知 2.10.43
- 5 豊田大谷 2.10.51

区間賞

区間	氏名	所属	記録
2区 (3.05km)	杉田 晃大	豊川	8.55
4区 (8.0975km)	鈴木 富大	愛知	24.37
5区 (3km)	相地 一夢	豊川	8.32
7区 (5km)	神田 悦士	豊川	14.43

**第16回愛知県市町村対抗駅伝**  
2023年12月2日(土)  
愛・地球博記念公園周回コース 9区間 30.2km



順位	市の部		町村の部	
	市	記録	町	記録
1	岡崎	1.38.06	阿久比	1.43.54
2	豊田	1.39.24	幸田	1.45.15
3	名古屋	1.39.49	蟹江	1.46.44
4	西尾	1.40.17	東郷	1.46.56
5	豊橋	1.41.04	大口	1.47.12
6	一宮	1.41.09	武豊	1.49.11
7	みよし	1.41.22	東浦	1.49.43
8	瀬戸	1.41.25	美浜	1.50.30

区間賞 (○数字は区間を示す)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| <b>市の部</b>   | <b>町村の部</b>  |
| ①渡邊 真湖 (新城)  | ①古川 蒼柊 (阿久比) |
| ②鈴木 富大 (知立)  | ②中村 悠吾 (大口)  |
| ③岩田 愛白 (瀬戸)  | ③岩男 咲飛 (豊山)  |
| ④水野 悠希 (大府)  | ④日比野嵩真 (大口)  |
| ⑤中島 夢渚 (名古屋) | ⑤永津 美波 (扶桑)  |
| ⑤興梠 葵 (刈谷)   |              |
| ⑥中村 麻衣 (瀬戸)  | ⑥上野 寧々 (豊山)  |
| ⑦石川 桜子 (日進)  | ⑦五藤 遥 (飛鳥)   |
| ⑧尾形 卓也 (小牧)  | ⑧風見 尚 (東浦)   |
| ⑨近藤幸太郎 (豊川)  | ⑨梶川 由稀 (蟹江)  |

**第17回東海学生女子駅伝対校選手権大会**  
2023年12月10日(日)  
知多半島半周 5区間 26.6km

女子 6位入賞分

- 1 名城大 1.26.47  
(柳樂あずみ・大河原 萌・増渕 祐香・平田 優月・原田 紗希)
- 4 日本福祉大 1.35.20
- 5 中京大 1.40.11
- 6 至学館大 1.43.53

**第85回東海学生駅伝対校選手権大会**

2023年12月10日(日)

知多半島一周 7区間 63.5km

男子 8位入賞分

1 名古屋大 3.16.15

(小川 海里・河崎 憲祐・加藤 太一・村瀬 稜治・  
重田 直賢・吉原 諒・森川 陽之)

4 中京大 3.21.49

5 愛知工業大 3.22.56

8 愛知教育大 3.29.40

**女子第35回全国高等学校駅伝競走大会**

2023年12月24日(日)

たけびしスタジアム京都付設駅伝コース 5区間 21.0975km

10 豊田大谷 1.09.52

(石川 桜子・山本 滝穂・森 千莉・嵯峨崎恋花・  
中馬 蘭奈)

23 豊川 1.11.08

(秋竹 凜音・野村 通子・小山 和月・谷 風沙・  
藤田 紅良)



**第107回日本陸上競技選手権大会**

2023年12月10日(日)東京・国立競技場

男子 10000m 8位入賞分

2 太田 智樹 トヨタ自動車 27.12.53 日本新記録

4 田澤 廉 トヨタ自動車 27.22.31

7 難波 天 トーエネック 27.46.66

**第31回全国中学駅伝大会**

2023年12月17日(日)滋賀県希望が丘文化公園スポーツゾーン芝生ランド  
(男子:6区間 18.0km・女子:5区間・12.0km)

女子

30 豊川西部 46.02

(熊本みくる・今村かのん・萩葉 優那・石原 亜季・  
近藤沙杏弥)



男子

27 牟呂 1.00.57

(呉山 海斗・森田 阜暉・小瀧 直央・波多野翔太・  
石川 塔梧・石川 継梧)



**男子第74回全国高等学校駅伝競走大会**

2023年12月24日(日)

たけびしスタジアム京都付設駅伝コース 7区間 42.195km

32 豊川 2.09.32

(神田 悦士・杉田 晃大・相地 一夢・佐野 鈴太・  
鈴木 駿介・蟹江 隼永・鷲野 遥都)



**第11回全日本大学女子選抜駅伝(富士山女子駅伝)**

2023年12月30日(土)

富士山本宮浅間大社鳥居前~富士総合運動公園陸上競技場 7区間 43.4km

1 名城大 2.22.42

(柳樂あずみ・米澤奈々香・山田 未唯・石松愛朱加・  
谷本 七星・増渕 祐香・原田 紗希)

区間賞

区間	氏名	所属	記録
1区(4.1km)	柳樂あずみ	名城大	13.01
2区(6.8km)	米澤奈々香	名城大	20.57
3区(3.3km)	山田 未唯	名城大	10.09
4区(4.4km)	石松愛朱加	名城大	14.08
6区(6.0km)	増渕 祐香	名城大	19.27 区間新

## 第55回元旦競歩・長距離競技会

2024年1月1日(祝)

物産フードサイエンス1969知多スタジアム

## 競歩成績 (本県分最上位のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
高校男子 5kmW	2	飯田 虎大	天白	26.11
一般男子 10kmW	5	小島 和矩	京都府立医大	1.03.30
高校男子 10kmW	1	永山 大志	豊明	47.02
一般男子 20kmW	1	小林 貫太	広島大	1.38.31
一般女子 5kmW	1	浦 愛彩	愛知教育大	29.36
高校女子 5kmW	1	小高 胡春	瑞陵	26.16
一般女子 10kmW	1	後藤 美咲	至学館大	57.46

## 長距離成績 (本県分1位のみ)

種目	氏名	所属	記録
中学男子 3000m	下村 太一	愛知陸協	9.48.37
一般男子 3000m	國居 寛大	至学館大	9.37.32
高校男子 5000m	藤原光一郎	豊明	16.27.39
一般男子 5000m	大野 雄揮	CROSSOVER	14.52.82
高校男子 10000m	加藤 唯人	愛知黎明	34.06.75
一般男子 10000m	平石 史哉	愛知大	33.19.56
中学女子 3000m	上井 美来	雁が音	12.10.77
高校女子 3000m	岡 郁菜	旭丘	10.56.37
高校女子 5000m	松本 紗直	旭丘	17.47.57
一般女子 10000m	山本萌恵子	愛知陸協	38.06.76

## 第68回全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)

2024年1月1日(祝)

群馬ニューイヤー駅伝コース 7区間 100km

1 トヨタ自動車	4.49.02		
(大石 港与・太田 智樹・田澤 廉・コリルフェニックス・田中 秀幸・西山 雄介・服部 勇馬)			
11 トヨタ紡織	4.54.39	33 愛知製鋼	5.00.18
21 トーエネック	4.57.32	38 中央発條	5.01.41
26 愛三工業	4.58.03		

## 区間賞

区間	氏名	所属	記録
2区(21.9km)	太田 智樹	トヨタ自動車	1.01.40
5区(15.8km)	田中 秀幸	トヨタ自動車	46.33
6区(11.2km)	西山 雄介	トヨタ自動車	32.59

## 2024日本室内陸上競技大阪大会

2024年2月3日(土)・4日(日)大阪・大阪城公園ホール

## 日本選手権 (本県入賞分)(◎:U20日本新記録)

種目	順位	氏名	所属	記録
女子 60mH	2	大松 由季	CDL	8.20
	3	林 美希	中京大中京高	8.23◎
女子三段跳	5	小寺 波音	日本女子体育大	12.05

## U20

(本県入賞分)

種目	順位	氏名	所属	記録
女子 60m	3	佐藤 俐有	至学館高	7.58
	5	岡田 翠	中京大中京高	7.64
女子 60mH	4	片山 心菜	中京大中京高	8.49
女子走幅跳	7	水野文由里	中京大中京高	5.53

## U18

(本県入賞分)

種目	順位	氏名	所属	記録
男子棒高跳	1	谷口 海斗	中京大中京高	4.90
男子走幅跳	6	齋藤 悠羽	豊橋南高	6.69
女子 60m	2	坂本 茜	中京大中京高	7.69
	7	津川 愛依	時習館高	7.75
	8	布施 一葉	豊橋高豊中	7.76
女子 60mH	5	三好 澄果	豊川高	8.56

## U16

(本県入賞分)

種目	順位	氏名	所属	記録
男子 60mH	2	石川 湊真	武豊中	8.19
	7	山崎 滂生	葵中	8.50
女子 60m	2	佐藤 那有	田原東部中	7.71
女子走幅跳	5	伊藤 里桜	大須 AC	5.30

## 第52回全日本実業団ハーフマラソン大会

2024年2月11日(日)山口県維新みらいふスタジアム発着

## 8位入賞分

順位	氏名	所属	記録
5	服部 大暉	トヨタ紡織	1.00.49
7	西澤 侑真	トヨタ紡織	1.00.54

## 男子団体の部

(上位3名の合計順位)

順位	所属	氏名
1	トヨタ紡織	(服部 大暉・西澤 侑真・小野 寺悠)
6	トヨタ自動車	(野村 優作・西山 和弥・内田 隼太)

## 第107回日本陸上競技選手権大会・20km競歩

2024年2月18日(日)六甲アイランド甲南大学西側20kmコース

## 男子

順位	氏名	所属	記録
6	丸尾 知司	愛知製鋼	1.19.06

## 第13回愛知競歩競技会

2024年2月24日(土)物産フードサイエンス1969知多スタジアム

## 成績

(本県分最上位のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
一般・高校男子 5000mW	1	永山 大志	豊明高	22.25.99
一般・高校男子 10000mW	4	伊里 友希	名古屋大	48.45.97
高校・中学女子 3000mW	2	大谷 優歩	高針台中	19.48.99

一般・高校女子 5000mW	1	川原 愛夏	豊川高	25.08.45
一般・高校女子 10000mW	1	柴田 葵	志学館大	51.13.72

## 第2回投てき競技会

2024年2月24日(土) 物産フードサイエンス1969知多スタジアム

成績 (本県分 1位のみ)

種目	氏名	所属	記録
中学男子砲丸投	桑野 智洋	武豊	11.66
高校男子砲丸投	兵藤 拓郎	名古屋大谷	14.48
高校男子円盤投	井上 稜	熱田	44.27
高校男子ハンマー投	皆川 朋輝	三好	57.09
高校男子やり投	岩坂レオン	名古屋大谷	57.30
中学女子砲丸投	渡辺 晴子	萩山	9.21
高校女子砲丸投	木下みなみ	安城学園	11.84
高校女子円盤投	安藤瑞七海	三好	39.86
高校女子ハンマー投	川本菜々香	三好	49.76
高校女子やり投	佐々木凜娃	三好	40.82

め、一部コースを変更し、犬山城と城下町の間を横切るコースにて行われました。フィニッシュ直前に、これまでのコースにない上り坂や急な下り坂もあり、また、雨天という悪コンディションの中でしたが、大きな事故等なく行うことができました。

ご指導・ご協力いただいた犬山警察署をはじめ、愛知陸協競技役員の皆さま、協力団体の皆さま、付近住民の皆さま方には厚く御礼申し上げます。久しぶりの開催で過去を思い出しながらの競技運営でしたが、今回出た反省を踏まえ、次回大会をよりよい大会にしていきたいと思ひます。



フィニッシュ手前の下り坂

(尾張陸上競技協会)

## 第43回読売犬山ハーフマラソン

2024年2月25日(日) 犬山ハーフマラソンコース

男子ハーフマラソン (本県入賞の上位 3名)

順位	氏名	所属	記録
2	富安 央	愛三工業	1.04.23
4	富田 直樹	中央発條	1.04.39
7	深谷 健斗	TPAC	1.04.53

女子ハーフマラソン

順位	氏名	所属	記録
1	鹿内 弥生	愛知電機	1.17.16
2	平山 璃奈	愛知電機	1.18.01
3	小田 恵梨	愛知陸協	1.18.40

男子 10km

順位	氏名	所属	記録
3	大岩 準	創価大	31.50
4	中村 望海	名古屋大	32.37
5	樋渡 雄太	創価大	32.39

女子 10km

順位	氏名	所属	記録
1	吉田 香澄	愛知電機	35.05
2	富田 光江	富士松 AC	37.58
3	森 優希	中京大	39.45

## 犬山ハーフマラソンを終えて

2月25日(日)に2019年以來5年ぶりの犬山ハーフマラソンが開催されました。犬山城北側のトンネル工事のた

## 名古屋ウィメンズマラソン2024

2024年3月10日(日)

パンテリンドームナゴヤ発着 名古屋ウィメンズマラソンコース

パリオリンピック最終選考会を兼ねた名古屋ウィメンズマラソン2024が、3月10日(日)に行われた。前日までの風も収まり、2時間20分を切るペースでレースは進んだが、後半に入り少しずつ遅れ始めた。

35km過ぎから豊川高校出身の安藤友香選手(ワコール)が先頭に迫り、残り1kmでトップに。2時間21分18秒の自己新記録でゴールテープを切った。3位には、名古屋大学出身の鈴木亜由子選手(JP日本郵政G)、4位には、名城大学出身の加世田梨花選手(ダイハツ)が入り、大いに盛り上がった大会となった。



パリに向かって

上位8名の成績

順位	氏名	所属	記録
1	安藤 友香	ワコール	2.21.18
2	ユニスケビチー チュンバヤ	バーレーン	2.21.25
3	鈴木亜由子	JP日本郵政G	2.21.33
4	加世田梨花	ダイハツ	2.22.11
5	夏 雨雨	中国	2.25.45
6	デルバインリン・メリンガー	ルーマニア	2.26.09
7	大西ひかり	JP日本郵政G	2.26.12
8	大森 菜月	ダイハツ	2.26.54



完走率は97%以上

愛知県選手上位3名

県順位	全体順位	氏名	所属	記録
1	29	古賀 夕貴	庄内RT	2.47.31
2	33	坂川真由美	AC一宮	2.50.21
3	35	吉田 香澄	愛知電機	2.50.39



お疲れさまでした

理事会等会議報告

○11月理事会

令和5年11月29日(水) 18:00 教育会館

1. 協議事項

- ① 全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝選手選考について
- ② 各種栄章候補者について
- ③ 愛知県スポーツ協会被表彰者について
- ④ 審判員昇格候補者について
- ⑤ その他

2. 報告事項

- ① 令和6年度日本陸連主要競技会について
- ② 各種大会結果報告
- ③ 陸連関係会議報告

④ 各専門委員会報告

⑤ 各陸協、協力団体より

○1月理事会

令和6年1月24日(水) 教育会館

1. 協議事項

- ① 令和6年度年間競技日程について
- ② その他

2. 報告事項

- ① マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知について
- ② 犬山ハーフマラソンについて
- ③ 各専門委員会報告
- ④ 各陸協・協力団体からの報告
- ⑤ その他

(水野 隆夫)

栄章

おめでとうございます

令和5年度愛知県スポーツ協会表彰

・功労賞

濱嶋 匡 林 一哉

・優秀選手・監督賞(国際大会入賞)

田澤 廉 河村 一輝 湯上 剛輝  
 藏重 みう 林 美希 石田 駆  
 高橋 峻也 福永 凌太 山本萌恵子  
 大島 健吾 芦田 創

・日本選手権大会等優勝

河村 一輝 小川 大輝 藏重 みう

(水野 隆夫)

おくやみ

長年にわたり本県の陸上競技発展のため、多大なるご尽力をいただきました次の方がお亡くなりになりました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	逝去年月	地区名
村上 脩一	R5・12	西三河
山内 満	R6・1	西三河

編集後記

数多くの駅伝やロードレースが行われました。大会に協力していただいたボランティアや警察関係者に感謝し、4月からの新しいシーズンに期待します。

編集委員

赤尾 和雄 大西 敏功 小坂 拓 鈴木人呂信  
 竹前 正直 茶谷 和彦 新見 精三 秦 聖喜  
 兵藤 重二 山下ゆかり